

道徳科

令和8年度 授業改善のポイント

- 1 物事を多面的・多角的に考える児童生徒の具体的な姿を想定した上で、切り返しや揺さぶりの発問等を用意し、児童生徒が多様な考えを話し合うことで考えを深められるようにする。
- 2 道徳的価値についての理解を基に、児童生徒がこれまでの生き方を振り返ったり、これからの生き方に希望をもったりする活動を充実させる。

児童生徒同士の対話を通して、物事を多面的・多角的に考える授業づくり

【指導事例】一冊のノート（中学校第3学年）【C（14）家族愛、家庭生活の充実】

道徳的価値	生徒の実態把握	教材の効果的な活用
<p>内容項目（父母、祖父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くこと）</p> <p>学習指導要領解説に示されている内容項目（p52～p53）を参照して道徳的価値の意義を理解し、指導の方向性を明確にする。</p>	<p>家族との関わりなどを問う事前アンケートの実施及びその分析や、日常的な行動観察を通して、道徳的価値に対する生徒の捉えや、実践意欲などの実態把握を行う。</p> 	<p>祖母にいら立つ「僕」が、ノートに記された祖母の苦悩や深い愛情に触れ、家族を多面的・多角的に捉え直す姿を描く。自らの甘えを自覚して、家族それぞれの立場になって考え、互いに支え合うなど、よりよい家族の在り方について深く考えさせる。</p>

重要 学習指導要領の内容項目を捉え、児童生徒の実態からねらいを設定し、発問の精査や児童生徒同士の対話を確保した指導過程を構想します。

【ねらい】 かけがえのない家族の存在に気付き、その一員として関わり合いながら、よりよい家庭生活を築こうとする態度を育てる。

展開の中段から後段の展開例

★：揺さぶりの発問

◆：これまでの生き方やこれからの生き方を見つめ直す発問

おばあちゃんの物忘れによって何度もトラブルにあっていく「僕」は、どんな気持ちでしょうか。



イライラしてもう限界、関わりたくないと思います。

わざとではないのは分かるけど「いい加減にして」と怒っていると思います。



ノートを読んで、おばあちゃんの苦しみや家族への思いを知った「僕」は、どんな気持ちになったでしょうか。



おばあちゃんに大切にされてきたことに気付いたと思うから、今度は自分が今のおばあちゃんを丸ごと受け入れたいという気持ちになったと思う。

自分の都合と甘えだけでおばあちゃんを責めていて、おばあちゃんのことを考えていなかった。だから、おばあちゃんに寄り添っていきたいという気持ちになったと思う。



ポイント1 多様な感じ方や考え方に触れることで、児童生徒が物事を一面的に捉えるのではなく、様々な視点から物事を理解し、自らの考えを見つめ直すことができるようにします。



★おばあちゃんはこれからも物忘れが進んでいき、家族を困らせるかもしれません。あなただったら、おばあちゃんのあるまますを受け入れ、寄り添い続けることができますか。



正直腹が立つこともあると思うけど、おばあちゃんのあるまますを受け入れたい。

おばあちゃんができない分を私たちが補い支え合う、それが本当の家族だと思う。



重要 児童生徒の発言によく耳を傾け、その気持ちや考えに対して更に深く尋ねたり、事前アンケートの結果や実体験などと関連付けたりして道徳的価値の理解を図った上で、人間としての生き方について深く考えられる活動を充実させます。



◆実は、みなさんのおうちの方から手紙を預かっています。…（各自で家族からの手紙を読む）…この手紙を読んであなたはこれから、家族の一員として家族とどのように向き合っていきたいですか。



家族がこんなにも自分のことを思ってくれていることを知って、とても嬉しかったです。家族に支えられることを当たり前と思わないで、ちょっとしたことでも感謝を伝えたり、自分にできる手伝いをしたりしたいです。

ポイント2 道徳的価値を自分との関わりで深く捉え直し、自らの成長を実感するとともに、これからの生き方の目標や課題を確かめていくための手立てを工夫します。